

1 事業概要

事業名	一般県道 <small>つまさきがいさくおのだ</small> 妻崎開作小野田線 道路改築事業
事業場所	山陽小野田市大字小野田 ^{おのだ} ～山陽小野田市新生三丁目 ^{しんせい}
事業主体	山口県
事業期間	平成 14 年度～平成 26 年度 (西暦 2002 年度～西暦 2014 年度)
総事業費	11,681 百万円
事業目的	一般県道妻崎開作小野田線は、宇部市と山陽小野田市の南部を周遊する幹線道路であり、当該事業区間は、地域高規格道路山口宇部小野田連絡道路の一部を形成する道路であるとともに、山陽小野田市の工業、商業地域と高速 I C を連絡する重要な道路である。 当該事業は、国道 190 号及び一般県道小野田港線の慢性的な渋滞の緩和を図るとともに、小野田港臨港地区と山陽自動車道小野田 I C とを短絡することにより、アクセス性を向上させ、臨海工業地域の円滑な産業活動を支援することを目的として実施している。
事業内容	○延長 L=1.8km ○幅員 【一般部】 4車線 : 全幅 28.5m (車道 3.25×4=13.0m) 【橋梁部】 暫定 2車線 : 全幅 12.25m (車道 3.25×2=6.5m) ○道路区分 第 3 種第 2 級

2 事後評価の視点

(1) 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

【費用対効果分析】

区 分	事業採択時・計画変更時・ 再評価時
評価基準年	平成 23 年度
事業費	11,000 百万円
工期	H14 年度～H26 年度
費用対便益比	B/C=1.8

【要因変化の分析】

- ・事業費は、6.8億円の増額となった。
- ・費用便益比は、再評価時と比較し同程度である。

(2) 事業の効果の発現状況

【事業の効果の発現状況】

- ・当路線の整備により、周辺道路の渋滞の緩和を図るとともに、小野田港臨港地区と山陽自動車道小野田 I C とを短絡することによりアクセス性が向上した。

新生町交差点(市街地から国道方面)の渋滞長: 250m→50m ※200m減少
 交通の転換: 小野田港線 21,598台/日→10,874台/日 ※10,724台/日減少
 妻崎開作小野田線 0台/日→12,305台/日 ※12,305台/日増加
 小野田港～小野田 I C の移動時間: 17分→13分 ※4分短縮

【事業の効果の発現状況に対する評価】

- ・当路線へ交通が転換し周辺道路の渋滞が緩和したことにより、安全で円滑な交通が確保された。
- ・アクセス性の向上により、地域産業の振興に寄与している。

(3) 事業実施による環境の変化

【変化の状況】

① 自然環境への影響

- ・ 当路線の整備により、約1 haの田畑が減少した。

② 生活・住環境等への影響

- ・ 国道190号及び一般県道小野田港線の自動車交通（産業関連交通の大型車両等）が当路線に転換したことにより、市街地における交通の安全性が向上した。

③ 環境保全対策の効果の発現状況（措置を講じた場合）

- ・ 車道を排水性舗装にすることで、道路騒音の低減を図った。

(4) 社会経済情勢の変化

【変化の状況】

① 社会経済状況及び事業環境等の変化

- ・ 当路線沿いに家屋や店舗が立地するなど、周辺の土地利用が進んでいる。

② 関連計画・関連事業の状況の変化

- ・ 当該路線とあわせて道路ネットワークを形成する主要地方道小野田山陽線において、JR山陽本線の跨線橋を含む拡幅整備を進めている。

(5) 今後の事後評価の必要性

なし

(6) 改善措置の必要性

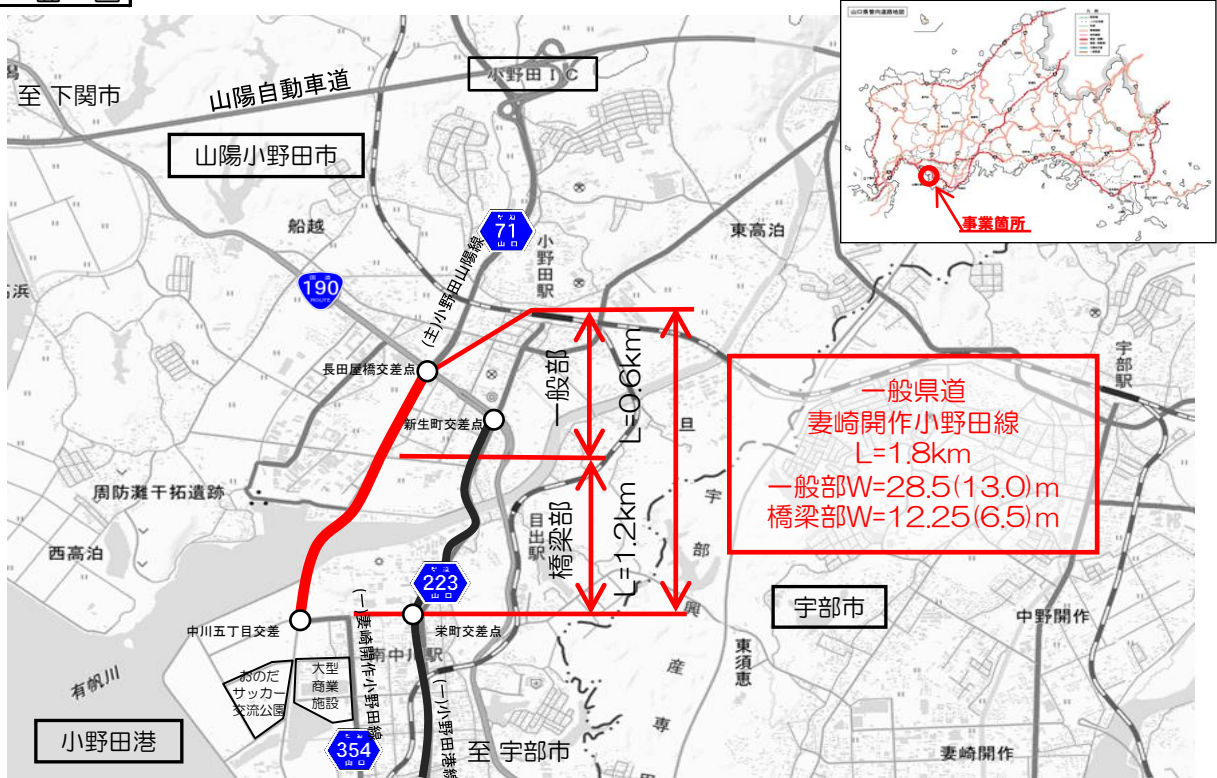
なし

(7) 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

なし

一般県道 つまざきがいさくおののだ 妻崎開作小野田線 道路改築事業

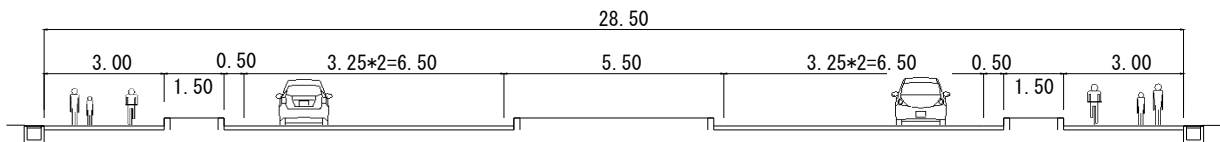
平面図



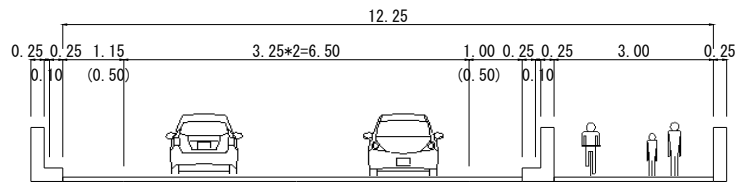
※この地図は、国土地理院地図（電子国土Web）の一部を掲載したものである。

標準断面図

【一般部】4車線



【橋梁部】暫定2車線



写真

